

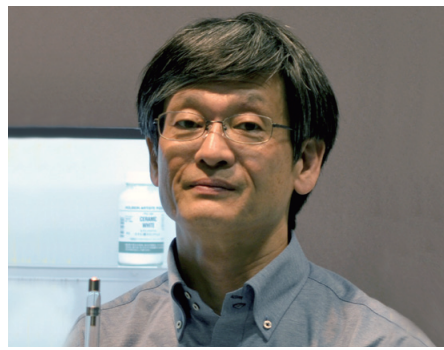
研究者
紹介

私の研究

理工学研究部

わかばやし ふみ たか

若林 文高 部長



国立科学博物館

『化学の発展の場を記録する』

化学研究や化学技術の発展の過程を示す資料を調査・研究・保存する

科学研究や技術開発では、成果が論文や製品などとして世に出ると、その現場で何が行われていたのなかなか触れることができません。しかし、その過程でいろいろな試行錯誤や苦難、喜びがあり、実はその過程にこそ興味深い事実が隠されています。

理工学研究部では、こうした科学の発展や技術の発展の過程を示す歴史的資料、しかも一次資料の所在調査をして、その資料を研究し、それにそれを収集保存し、将来のさらなる研究に役立てることを重要な任務のひとつとしております。

私は、博物館に入り、元々の専門である触媒化学の実験的研究や専門に関わる実験教材の開発をしながら、当館や外部に残されている化学史・化学技術史関係資料の調査研究を行い、その成果の一部を、企画展や特別展、常設展などで公開しております。皆さんは、博物館や美術館のさまざまな展示を楽しんでいらっしゃると思いますが、実は一番おもしろいのはそれを作る過程にあります。科学研究や技術開発も一番おもしろいのは、その過程、現場にあります。そうした過程を示す一次資料を掘り起こし、そこから何がわかるのかを追求したいと思っております。

最近、こうした資料の存在情報がさまざまな方面から寄せられ、興味深い一次資料に遭遇しています。日本の科学・技術は名実ともに世界のトップグループになりましたが、先人たちが築き上げてきた過程を示す貴重な資料の発掘と分析を進めていきたいと思っております。



化学史資料に関わる企画展「化学者展」(2011年秋)：展示した櫻井錠二資料、鈴木梅太郎資料、真島利行資料の一部が、後に日本化学会の「化学遺産」に認定された。



専門の化学に関わる特別展：「元素展」(2012年夏) 現代的な資料が中心。数多くの来館者があった。このときに113番元素を発見した森田浩介博士とIGZO液晶の開発などで知られる細野秀雄博士の講演会が行われた。



専門の化学に関わる特別展：「ヒカリ展」(2014年秋) 筆者の実験研究では光を使う。可視光に限らず広い意味での「光」、すなわち電磁波を取り扱った。現代的な資料が中心だが、光に関する歴史的研究書も展示。

研究者に
聞いてみました!

1) 専門は何ですか

触媒の反応機構を物理化学的手法で研究しています。専門に関わる実験教材の開発や、日本の化学や化学技術の発達史に関わる資料の調査研究も行っています。

2) やりがいを感じるのとはどのような時ですか

やはり、自分の研究が引用されることでしょう。専門の総説や教科書の専門書に紹介さ

れているとやりがいを感じます。

3) 研究以外の趣味や熱中していることはありますか

最近は機会が少なくなりましたが、自転車ですらぶらぶら(ふらふら)出歩くことです。18インチの折りたたみ自転車です。東京都の道路最高地点(海拔1146m)がある「奥多摩周遊道路」を武蔵五日市駅(海拔約180m)から奥多摩湖まで抜けたときは疲れました。最高地点を知らぬ間に通り過ぎて、あっという間に下ってしまい、引き返せませんでした。

4) 研究する上で一番大事だと思うことは何ですか

何にでも興味を持つことだと思います。收拾がつかなくなることが多く困っています。



アメリカ化学会論文誌編集委員と

理工学研究部